

各 位

2024年 5月17日

会 社 名 東邦アセチレン株式会社
代表者名 代表取締役社長 池田 悦哉
問合せ先 秘書室 吉田 雅俊
Tel 022-366-6110

取締役会の実効性評価の結果概要に関するお知らせ

当社は、取締役会の機能を向上させひいては企業価値を高めることを目的として、取締役会の実効性に関する評価・分析を実施しましたので、その結果の概要をお知らせします。

記

1. 分析・評価の方法

当社取締役会は、取締役会の実効性の分析・評価を実施するに当たり、2023年12月度の定時取締役会において、評価の手法につき検討した結果、より客観的・中立的に検証するため、本年度も引き続き外部機関の助言を得ながら以下の方法で行うこととしました。

2024年2月に、取締役会の構成員である取締役7名（常勤3名・社外4名）及び監査役4名（社外4名）並びに取締役会への出席を義務付けております上席執行役員3名の合計14名を対象にアンケートを実施しました。回答方法は、外部機関に直接回答することとし匿名性を確保しました。外部機関からの集計結果の報告を踏まえたうえで、2024年5月度の定時取締役会において分析・議論・評価を行いました。なお、アンケートの質問の概要は以下の通りです。

※ 質問概要

- | | |
|-------------------|-----------|
| ① 取締役会の構成 | (設問＋自由記入) |
| ② 取締役会の運営 | (設問＋自由記入) |
| ③ 取締役会の議論 | (設問＋自由記入) |
| ④ 取締役会のモニタリング機能 | (設問＋自由記入) |
| ⑤ 社外取締役のパフォーマンス | (設問＋自由記入) |
| ⑥ 取締役・監査役に対する支援体制 | (設問＋自由記入) |
| ⑦ トレーニング | (設問＋自由記入) |
| ⑧ 株主(投資家)との対話 | (設問＋自由記入) |
| ⑨ 自身の取組み | (設問＋自由記入) |
| ⑩ 総括 | (設問＋自由記入) |

2. 分析・評価の結果の概要

アンケートの回答から、役員間の認識の差が大きく表れた項目や今後改善すべき複数の個別課題はあるものの、おおむね肯定的な評価が得られており引き続き当社取締役会全体の実効性は確保できていると認識しております。

また、前年からの課題でありました外部環境の変化に応じた経営戦略や経営計画等の更新・修正、資本効率等を意識した経営戦略、経営計画等の決定及び取締役会資料の配布時期の早期化については未だ不十分な部分はあるものの大幅な改善が見られました。

一方で、取締役・監査役に対する支援体制やグループ全体の内部統制システム構築等は不十分であり今後取り組むべき課題として共有されました。

尚、質問に対するアンケート結果の概要は以下の通りです。

- ① 取締役会の構成（員数、知識、経験、専門性、ジェンダー、社外取締役の人数）については、法務・会計の専門家就任を求める意見もあったが適切であった。
- ② 取締役会の運営については、資料への網羅的な情報の掲載がやや不十分であるものの、資料の配布時期が大幅に早まったほか、審議項目数、スケジュール調整等事務局側の運営方法についても適切乃至おおむね適切であった。
- ③ 取締役会の議論については、取締役・監査役、社内・社外に係らず自由に発言できる雰囲気である。また、前年度からの指摘事項である事業論等中長期的な当社の方向性の検討についても改善されてきており、おおむね適切であった。
- ④ 取締役会のモニタリング機能については、経営陣の報酬制度の設計、具体的な報酬額の適切な決定等おおむね適切であり、その他についても適切であった。
- ⑤ 取締役・監査役に対する支援体制については、支援体制の充実に向けた事務局員の増員が必要との意見が多数あり今後の課題として共有した。
- ⑥ 役員トレーニングの機会はおおむね確保されているという認識であった。
- ⑦ 株主(投資家)との対話状況の取締役会へのフィードバックについては、改善はされているものの未だ不十分であった。
- ⑧ 自身の取組については、職務に必要となる時間の確保についてはおおむね適切であるほか、役員間の意思疎通、意見交換、議案の審議内容等は適切であった。
- ⑨ 総じて当社取締役会は、解決すべき課題は抱えつつもおおむね実効的に機能している。

3. 今後の対応について

※ 2024年度以降の経営課題について、取締役会として改めて情報並びに認識の共有化を図るとともに、課題の解決に向けて引き続き積極的に取組み、取締役会の実効性確保に一層努めてまいります。